

2 0 1 6 年 度

事 業 報 告

社会福祉法人にじのこ福祉会

概 要

．にじのこ福祉会の概要

1．法人の概要

経営主体 社会福祉法人 にじのこ福祉会
 所在地 岡山県岡山市中区桜橋三丁目1番51号
 T E L 086-272-4111
 F A X 086-272-4171
 代表者 理事長 浪尾淑子
 法人設立年月日 2010年7月1日

2．理事会・評議員会 開催状況

理事会開催状況

開 催 年月日	出席者 人数	議 題	欠 席 者 氏 名	出席監事 氏 名
H28 5/19	理事6名 監事2名	第1回理事会 経過報告 1号議案：2015年度保育所施設・設備整備積立金の積み立てについて 協議事項	尾崎務	岡野鈴子 藤原弘典
H28 5/25	理事7名 監事2名	第2回理事会 経過報告 1号議案：2015年度社会福祉法人にじのこ福祉会事業報告書について 2号議案：2015年度社会福祉法人にじのこ福祉会決算報告書について [監査報告] 協議事項		岡野鈴子 藤原弘典
H28 6/15	理事6名 監事2名	第3回理事会 経過報告 経過報告 1号議案：新役員の同意 2号議案：新評議員の選任 3号議案：理事長の選任について 4号議案：職務代理者の指名について 5号議案：2015年度社会福祉法人にじのこ福祉会決算修正について [監査報告]	入江慶太	岡野鈴子 藤原弘典
H28 10/26	理事7名 監事2名	第4回理事会 経過報告 1号議案：規定の改定 協議事項		岡野鈴子 藤原弘典
H28 11/14	理事7名 監事1名	第5回理事会 1号議案：規定の改定 2号議案：平成28年度賃金改善計画について 3号議案：労働組合からの要求書について 協議事項		藤原弘典

H28 11/29	理事7名 監事2名	第6回理事会 経過報告 1号議案：定款変更について 2号議案：平成28年度賃金改善計画について 3号議案：労働組合からの要求書について 協議事項		岡野鈴子 藤原弘典
H29 3/15	理事6名 監事2名	第7回理事会 経過報告 1号議案：評議員選任・解任委員会細則の施行および委員会の設置 2号議案：評議員候補者の選任 3号議案：人勤による委託費の改定差額の支給について 4号議案：規定の改定および労使協定について 5号議案：労働組合からの要求について 協議事項	入江慶太	岡野鈴子 藤原弘典
H29 3/22	理事5名 監事2名	第7回理事会 経過報告 1号議案：評議員候補者の選任 2号議案：評議員選任・解任委員会細則の施行および委員会の開催	入江慶太 岡嶋清太郎	岡野鈴子 藤原弘典
H29 3/29	理事5名 監事1名	第8回理事会 経過報告 1号議案：2016年度第1回補正予算について 2号議案：保育室の変更、重要事項説明書について 3号議案：2017年度事業計画書について 4号議案：2017年度当初予算について 5号議案：規定類の改定および協定書について 6号議案：当座貸越の契約更新について 7号議案：社会福祉法人向けマシ* マトリス* ｱｸｼｮﾝ保険について 協議事項	入江慶太 岡嶋清太郎	藤原弘典

評議員会開催状況

開催年月日	出席者人数	議 題	欠 席 者 氏 名	出席監事氏名
H28 5/25	12名	第1回評議員会 経過報告 1号議案：2015年度社会福祉法人にじのこ福祉会事業報告書について 2号議案：2015年度社会福祉法人にじのこ福祉会決算報告書について [監査報告]	井上伸二 上羽佳子 中西直美	岡野鈴子 藤原弘典
H28 6/15	8名	第2回評議員会 経過報告 1号議案：新役員の選任について 2号議案：2015年度社会福祉法人にじのこ福祉会決算修正について [監査報告]	井上伸二 景山一正 清水博文 中西直美 長田美和子 森岡健司 山崎晶弘	岡野鈴子 藤原弘典
H28 11/29	11名	第3回評議員会 経過報告 1号議案：定款変更について	景山一正 狩野毅 長田美和子 森岡健司	岡野鈴子
H29 3/29	9名	第4回評議員会 経過報告 1号議案：2016年度第1回補正予算について 2号議案：保育室の変更、重要事項説明書について 3号議案：2017年度事業計画書について 4号議案：2017年度当初予算について 5号議案：当座貸越の契約更新について	井上伸二 岡嶋清太郎 景山一正 狩野毅 中谷美代子 山崎晶弘	藤原弘典

3. 監事監査の実施状況

2016年5月19日(金) 15:00～ 岡野鈴子監事(業務監査)・藤原弘典監事(会計監査)
2016年6月15日(金) 17:00～ 岡野鈴子監事(業務監査)・藤原弘典監事(会計監査)

4. その他

岡山市指導監査 9月8日

岡山市指導監査行政説明会
法人改革へむけた事務局会議 11月11日

研修

全国民間保育園経営研究懇話会「中四国ブロック 学習会」
実施日 8月7日
参加役員 浪尾理事・坪中理事

全国民間保育園経営研究懇話会「全国経営研究セミナー」
実施日 2017年1月11日～13日
参加役員 入江理事・岡嶋理事・坪中理事

岡山協立保育園50年記念事業 2016年10月1日
親子鑑賞会 劇団『クラルテ』による人形劇
保護者講演会 近藤直子氏による講演
レリーフ

職員採用試験

保育士採用試験

2016年 7月16日 (土) 9:00～14:30 新卒1名採用
2016年10月 8日 (土) 9:00～14:30 新卒1名採用
2016年10月22日 (土) 9:00～14:30 新卒1名採用

岡山市内民医連事業所地域包括ケア連携会議

	実施日		実施日
4月		10月	10/21
5月	5/24	11月	11/16
6月		12月	12/21
7月	7/13	1月	1/27
8月	8/10	2月	2/24
9月	9/14	3月	3/24

．岡山協立保育園の概要

1 ．地域の概要

岡山協立保育園は、岡山駅から車で約 10 分のところに位置しており、高齢者が多い地域になっている。街の中心部であるため、周囲 2 キロ以内には認可保育園が 13 園あり、保護者は勤務地に近いなどの理由で利用するケースが多くなっている。

園児が在住している地域は、中区が一番多く約 70.3%、南区が約 19.8%、北区が約 6.9%、東区が約 3.0% になっている。地元東山中学校区の割合は、全体の約 30.6%（平井小学校区約 17.8%、旭東小学校区約 12.8%）を占めている。園児は、岡山市内全域から登園しており、33 小学校区から通って来ている。ここ最近では、地元からの入園が増えている。

2 ．施設の概要

- ・敷地面積 3675.3 平方メートル
（うち駐車場の一部は借地...394.64 平方メートル）
- ・延床面積 1064.5 平方メートル
（園舎 792.49 平方メートル・増築園舎 251.29 平方メートル・屋外倉庫 20.72 平方メートル）

3 ．定員

- ・保育事業 定員 120 名（各年齢 20 名）

4 ．受入年齢

- ・受入年齢 生後 57 日目から就学前まで

5 ．保育時間

措置児

- ・午前 7 時から午後 6 時まで

一時保育利用児

- ・午前 7 時 30 分から午後 7 時まで

6 ．延長保育事業

- ・午後 6 時から午後 7 時まで
- ・一日平均利用人数 約 7.2 人

7. 保育方針

- ・一人ひとりの子どもを大切に
- ・父母の労働を保障する
- ・父母と園が連帯を持って、地域の人々の信頼と協力を得ながら保育の輪を広げる
- ・職員は保育の向上と充実に向けて学習につとめる

8. めざす子ども像

- ・健康な子ども
- ・生活やあそびをつくりだす子ども
- ・ともだちと共に育つ子ども
- ・働く喜びがわかる子ども

9. 職種別職員数

() は非正規の人数・派遣を含む

形態 \ 職種	施設長	主任 保育士	保育士	栄養士	調理員	事務員	保育補助	合計
常勤職員	1 人	2 人	13 (5) 人	1 人	2 (1) 人	1 人	人	20 (6) 人
短時間職員			14 (14)		1 (1)		1 (1)	16 (16)
合計	1	2	27 (19)	1	3 (2)	1	1 (1)	36 (22)

10. 年間利用児童数

- ・定員超過率 106.9 % (昨年度比 - 15.6 %) * 定員増により前年度より超過率が減少
- ・月平均在籍数 128.25 人 (昨年度比 + 18 人)

種別 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳	8 人	9 人	9 人	12 人	14 人	15 人	16 人	18 人	20 人	20 人	20 人	19 人	180 人
1歳	20	21	21	22	21	21	22	22	22	22	21	21	256
2歳	26	26	26	26	26	27	27	27	27	29	29	29	325
3歳	22	22	22	22	22	22	22	22	22	23	23	23	267
4歳	27	27	27	27	27	27	27	27	27	26	25	25	319
5歳	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	192
合計	119	121	121	125	126	128	130	132	134	136	134	133	1539
入園児数	10	2	0	4	2	2	2	2	2	3	0	0	29
退園児数	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	1	0	5

退園理由... 入所理由消滅・転居など

11. 一時預かり利用児童延べ人数

- ・年間開園日数 254 日 (昨年度比 + 0 日)

・一日平均利用人数 約 13.4 人（昨年度比 - 1.2 人）

・のべ利用人数 3,392 人（昨年度比 - 307 人）

種別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
就労・就学	188	176	222	196	215	197	214	246	229	197	201	279	2560
緊急 (出産・傷病・慶弔)	13	12	12	13	10	13	17	17	28	6	0	0	141
私的 理由	71	65	82	83	55	48	35	43	34	44	67	64	691
合計 利用数	272	253	316	292	280	258	266	306	291	315	268	343	3392

12. 年間行事、災害訓練、健康管理、衛生管理等実施内容

実施月	保育園行事	健康管理 安全管理 災害訓練	地域行事への参加 行政・他団体との連携行事
4月	進級おめでとうの会 いのちを大切に する日		
5月	端午の節句の会 保護者総会・父母の会 総会 給食試食会 親子バス遠足（いちご狩り）	フッ素塗布	
6月	保育参観週間 クラス懇談会	救命救急講習会 定期健康診断 ぎょう虫検査 尿検査	旭東こどもまつり （旭東小学校）
7月	クラス懇談会 七夕の会 お泊り保育 劇団風の子観劇	歯科検診	交通安全教室 （岡山市生活安全課）
8月	土用の丑の日の会 プールじまいの会		宿題応援隊（岡山医療生協） 民話の会（旭東児童センター） おばけやしき（旭東児童センター）
9月	おつきみかい 中秋の名月の会	フッ素塗布 就学前健康診断	平和の風船とばし（4者協議会）
10月	50周年記念行事 ちびっこまつり 芋掘り遠足		4園交流運動会 （旭東幼稚園・旭東保育園・博愛会保育園）
11月	お泊り保育 就学前懇談会 保育参観週間 お弁当の日	定期健康診断	交通安全教室（岡山市生活安全課） 岡山ドーム（岡山市私立保育園園長会） 人形劇（福祉交流プラザ旭東）
12月	クリスマス会 お弁当の日		
1月	七草の会 鏡開きの会 おおきなあれのつどい 保育参観週間	フッ素塗布	絵本を楽しむ会（旭東小学校）
2月	節分の会 角笛シルエット公演観劇 クラス懇談会 保育参観週間 お弁当の日	入園前健康診断	保護者研修会 絵本を楽しむ会（旭東小学校）

3月	ひなまつり茶会 おわかれ遠足 卒園式		交通安全指導（岡山市生活安全課）
定例	園庭開放 個人懇談または家庭訪問	避難・消火訓練 身体測定	*岡山医療生活協同組合 ふれあい会食

13. 職員会議及び総括・方針会議

職員会議 毎月第1土曜日

総括会議 2/11(土)・2/12(日)

方針会議 3/4(土)

14. 職員研修

	主催	研修名	日時	参加者
全国	全国保育団体連絡会	全国集会	8/20～8/22	12人 (提案者1名、司会2名)
	全国幼年教育研究協議会	全国集会	7/23～24	1人
	たべもの文化研究会	食と健康を考えるシンポジウム	7/30～7/31	2人
	中・四国経営懇	中四国経営懇学習会	8/22	3人(理事2人含)
	全国民間保育園経営研究懇話会	全国民間保育園経営研究懇話会総会	6/5～6	1人
		民間保育園経営研究セミナー	1/9～11	3人(理事3人含)
	厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課	厚労省委託事業シンポジウム	3/7	1人
厚生労働省、独立行政法人環境再生保全機構	アレルギー疾患に対する普及啓発講習会	11/4	1人	
岡山県	岡山県民間保育所協議会	新任保育士研修	3/2	3人(次年度採用職員)
		岡山地区保護者研修会	1/21	3人
	岡山県給食協議会	特定給食施設関係者	8/5	1人
	岡山県私立保育連盟	保育セミナー(乳児)	6/29	2人
	岡山県社会福祉法人経営者協議会	制度改革対応セミナー	8/25	1人
倉敷	コダーイ芸術教育研究所(倉敷地域)	保育実践研修(乳児)	5/15・5/21	3人
		公開保育(昭和保育園・中州保育園・連島東保育園・琴浦中保育園)	6/24 8/25 8/26 10/18	1人 1人 2人 2人
		環境認識例会(幼児の遊びと環境)	6/25・9/31・1/26	3人
		給食研修会	7/2・9/3・11/20・1/21	1人
津山	インターナショナルすこやかキッズ	運動会種目講習会	4/17	3人
岡山市	岡山市保育協議会	岡山市保育研究大会	11/14	2人(研究委員1人)
		岡山市保育協議会総会	5/14	3人
		乳幼児期における食育	8/9	1人

ブロック	岡山市保育協議会 4ブロック	4ブロック公開保育（浜保育園）	6/23	2人（研究委員1人）
		4ブロック研修会	年18回程度	1人（研究委員1人）
自主研修	岡山保問研 例会	食育	2月に1回程度	1人
		乳児	2月に1回程度	3人
		障がい児	2月に1回程度	2人
		あそび	2月に1回程度	2人
園内研修	園内保育研修会	公開保育 3回（野崎末子）	6/6～6/9 7/4～7/7 11/7～11/11	全職員
		発達学習会 3回（田中真介）	7/2・12/3・2/4	全職員
		わらべうた 2回（高城敏子）	8/30～31 11/15～16	全職員

15. その他（建物等修理・修繕の実施、設備・備品等の整備内容等）

建物・備品等の修理・修繕

- ・ひやりん 修理
- ・空気清浄器設置用 コンセント増設
- ・生ごみ処理機 修理
- ・保育室排煙装置 修理
- ・タイムレコーダー 修理
- ・保育室窓ガラス 修理
- ・アルミ避難者 タイヤ交換2台
- ・保育室ドアサイン入替
- ・業務用掃除機 モーター交換
- ・業務用炊飯器 修理
- ・ハイブリッドファン 修理

設備・備品等の整備

- ・スチームコンベクションオープン 1台
- ・空気清浄機 16台
- ・加湿器 16台
- ・おまかせ保育システム（パソコン用ソフト）
- ・創立50周年記念 壁画 1台
- ・ベッド収納庫 1台
- ・ノートパソコン 6台
- ・ミニソフト滑り台 1台
- ・ベビーナ布団収納庫 1台
- ・UTM（ネットワーク統合脅威管理機器） 1台

事業報告

・法人事業報告

2016年7月1日より第3期役員・評議員による法人運営を行っている。

1．120名定員での事業開始

本年度より、地域における待機児童解消のために定員を30名増やした。

4月当初は、直前に入園辞退もあり119名でのスタートだったが、1か月あたりの平均園児数は、128.25人であった。

また、一時保育の1か月あたりの利用人数は282.66人で、一日あたり13.40人であった。利用理由は、就労が75.47%、緊急が4.16%、私的が20.37%になっており、保育所不足により保育園に入園できない子どもが一時保育を利用している状況が伺える。

2．岡山協立保育園50周年記念行事

岡山協立保育園は、10月1日に開園50周年を迎えた。記念事業として、絵本コーナーにレリーフの作製と、保護者と子どもが楽しめる会を企画した。

レリーフの作製は、準備期間が1年程度で、倉敷芸術科学大学の学生さんがデザイン作りの協力してくれた。5歳児が参加し、自分たちが切ったシートを、学生さんの指示のもと貼っていった。絵本コーナーは、レリーフが飾られたことで華やいだ。

また、当日の午前は、人形劇団「クラルテ」による人形劇を親子で楽しんでもらい、午後は、保護者向け講演会として、近藤直子先生に講演していただいた。参加者からは、どちらも好評だった。

この取り組みは、保護者と職員、理事・評議員で、実行委員会を組織して進めていった。しかし、保育園の2大行事でもある「おつきみ会」と「ちびっこまつり」の間の日程ということで、職員に大きな負担もあった。父母の会も当日大活躍してくれたが、行事終了後の反省会など開けなかったことは悔やまれる。

3．岡山医療生活協同組合との連携

地域の子育てを応援する活動

毎月開かれる「子育てサポート委員会」に出席し、医療生協とともに子育て支援に取り組んでいる。

具体的には、若いお母さんたちが中心の「ママ's カフェ」、小学生を対象とした「宿題応援隊」、新米ママが参加する「タッチケア」、お母さんや祖父母世代が参加する「子育てサポーター養成講座」など、様々な世代が参加する活動のサポートを行った。今後も、委員会の中で「子ども食堂」の検討などを協議するとともに、地域の方々が求めていることを引き続きサポートしていきたい。

園児は、毎月開かれる「旭東学区ふれあい会食」に参加し、高齢者との交流を楽しんだ。

岡山市内民医連事業所地域包括ケア連携会議

「4者協議会」を改め、「岡山市内民医連事業所地域包括ケア連携会議」に参加している。

この会には、岡山医療生活協同組合、協同プランニング、岡山中央福祉会、林道倫精神科神経科病院、にじのこ福祉会など、民医連に加盟または関係する団体が、それぞれの抱える問題や「医療・介護・子育て」などの分野で地域に貢献できる事業展開などを協議している。

当法人からは、「保育・子育て」の分野での情勢や子どもや保護者の実態などを報告し、連携会議の中で協議している。ここでも、子どもの貧困問題や我が子が待機児童となり復職できない職員の実態などが報告されている。今後は、「子ども食堂」や「事業所内保育所」などの検討があげられている。

4. 職員の働き続けられる職場環境づくり

保育士等の給与改善について

待機児童問題を発端に、保育園やそこで働く職員、特に保育士の確保が急務となり、かつてない処遇改善が進められている。これにより、2014年度以降は、毎年改定が行われている。

2014年度は人事院勧告の改訂による運営費中の人件費分+2.0%の単価改定、2015年度は人事院勧告で1.9%の改訂があったため公定価格+1.29%の単価改定、2016年度は人事院勧告の改訂により+1.3%の単価改定などの処遇改善がされた。

これらにより、給与改定の課題であった、前歴加算の改定を2015年度に実施（2014年分を原資とする）し、住宅手当の創設や初任給をはじめ6年目までの給与の改定を2016年度は実施（2015年分を原資とする）できた。

2017年度も、委託費の中で処遇改善加算+2.0%、保育士等の処遇改善を目的とした岡山市単独の補助金+2.0%（月額6千円）、保育士等の経験技能に応じた改善（月額4万円、月額5千円）などの支給が決まっている。これらと2016年度の人事院勧告分1.3%を原資に、リーダー等の手当の創設、新たな役付き職員の任命や役職手当の見直し、バランスのとれた給与表の改定などに取り組む必要がある。

働き続けられる環境づくり

保護者の労働を支え、子どものより良い発達を保障する保育園職員は、社会の多様なニーズへの対応が求められるとともに、個々の子どもや家庭への細やかな配慮が求められる。そんな中、保育労働は一段と過密化し、職員に大きな労働負担やストレスがかかっている。「子どもの幸せと家族の幸せと職員の幸せを同時に保障する」ことが求められているが、そのためにも、保育園職員のそれぞれの実情を把握した職場環境づくりが必要になると考えた。

そしてここ数年は、様々な取り組みを試みることで環境の改善に取り組んでいる。

希望休暇の取り組み

子育てや介護、プライベートな予定を、勤務表に反映できるように、誰でも「希望休暇届出書」を提出でき、それに従った勤務を作成した。そのために必要な「代替え職員」を配置したことで、ほぼすべての希望を叶えることが出来た。

有給休暇取得

特別なことがない限り有給休暇の取得は難しかったが、2時間（5日分）から取れるようにし

たり、勤続3年目から土日+3日間、5年目から土日+5日間、などの有給休暇が取れるようになってきた。取得期間についても、取得者の希望を最大限かなえられるようにしている。

事務時間の保障

保育士は、勤務時間のほぼ全てを子どもと過ごしている。計画や記録などの事務時間は、通常の保育体制の中では難しい。そんな中、多くの保育士は、持ち帰っての残業を余儀なくされていた。しかし近年は、個人情報の管理が厳しくなり、園外への持ち出しを禁止したため、事務処理については残業せざるを得ない中、家族に負担をかけるため実態として難しい部分もあった。これら様々な矛盾を解決する必要があり、希望休暇を取得するための「代替え職員」を、特定のクラスに準担任のように位置付け、できる限り子どもへの負担も少なくしたいと考えた。この取り組みにより、クラスリーダーは月1.5~1.0日、担任は0.5日の事務時間が保障できた。

相談しやすい体制づくり

以前は、主任が各クラスの相談窓口になり、直接指導するやり方で取り組んできたが、現場保育士が、日々の悩みや気づきを相談しやすいように、各年齢に相談指導の担当者としてサポーター（中堅保育士）を配置した。また、中間層を作り、果たすべき役割を受け持つことで、次世代の管理職を育成する上でも体系的に取り組めると考えた。

現場職員からは、「相談がしやすかった」「3上の先生に客観的に子どもの様子を見てもらうことで、子どもの育ちに見通しを持つことが出来た」「話し合いに入ってもらって、的確にアドバイスをもらえてよかった」などの感想をもらっている。

サポーターの職員からは、「3未、3上の連携がとれた」「3未の子どもの育ちを客観的にみることで、3上に向けてどういうことが必要なのかなど、考えるきっかけができた」「3未の発達について学びなおすなど、自分自身の勉強になった」「話し合いの進め方、まとめ方などについて考えることで勉強になった」引き続き体制をとりながら、保育観察ができるようにしたい」などの感想をもらっている。

今後は、サポーター手当なども創設し、より責任をもって取り組んでもらえるよう整備をしていきたい。

・ 保育園事業報告

- 私たちの保育についての考え方 -

私たちは、「一人ひとりを大切にする」という理念を持っている。

集団保育の中で、一人ひとりを大切にす保育を実践するため、乳児保育では「育児担当制」と「流れる日課」を、幼児保育では「異年齢混合保育」に取り組んでいる。

「育児担当制」(0～2歳児)

子ども達は、毎日決まった大人に関わってもらうことで、情緒が安定し、落ち着き、深い人間関係を築いていく。そういう当たり前の暮らしを保育園で保障するために、一人ひとりの子どもに担当の保育士を決め、子どものことをより深く理解し、目に見えにくいちょっとした心の変化や、昨日と違う今日の変化も感じ取れるように心がけて保育をする。

「流れる日課」(0～2歳児)

この時期の子どもの成長発達にとって、「眠り」は最も大切なもので、「眠り」を中心に、一人ひとりに合わせた一日の日課を作る。自ら眠り、おなかいっぱい食べ、しっかり遊んで、また眠る。この繰り返し、やがて生活の見通しになり、自分で生活できる力の土台(主体性)をつくると考える。

「異年齢混合保育」(3～5歳児)

3歳以上児は、3・4・5歳の混合保育を行っている。この保育は、少子化が進み地域社会が閉塞的になり、異年齢での交流が少ない現代において、子ども同士の関わりを豊かに保障するねらいがある。異年齢混合保育は、子どもの心の中にあこがれの気持ちや思いやりの気持ちを育て、自分自身に対する自己評価や自己像の形成を助ける。また、子どもたちのつながりが自然にでき、友達の見方が多面的になる。異年齢の存在があることで、子どもや保護者が、大きくなることへの見通しを持ちやすく、保育士も3年間の発達段階の中を生きるひとりひとりの子どもとして、その違いにより注目し、保育していくことが可能になると考える。

【保育内容をとらえる視点】

保育士は、普段の保育の中で、子どもが出来るようになった「結果」だけでなく、取り組みの「過程」の中にある、子どもの「ちょっとした変化」や「心の葛藤」を、その都度言葉にして丁寧に伝えることを心がけている。また、こうした対応は、大人が子どもを「認める」といったレベルにとどまらず、行動と言葉と感情が一致することで、その子の考えや思いが明確になり、やがて自己を確立する段階で、自己一致した人間に育つと考えている。

この丁寧な関わりこそが、私たちの保育の質の中心にあるものだと考える。また、大人に変化を認めてもらうことで、自分自身の変化に気付き、よりよい自分になるようとする意欲(向上心)

を引き出すことにも繋がって行くと考える。

保育で大切なことは、子どもがやってみたら「できたーできなかった」「面白かったー難しかった」

「自信になったー不安になった」という子ども自身が感じる感情（左右対称の明確な感情ではなく、もっと複雑な気持ちもあると思う）を、大人が理解し共感することである。そして、大人が理解してくれたからこそ生まれる安心感やそこを基盤とする向上心、そしてチャレンジし達成できた時の喜びが自信になり、さらなる高みを乗り越えるための新たなエネルギーになっていくと考えている。

また、保育士は子どもとの関係の中で、受容と共感が成立していくにしたがって、より本格的な指導を展開できるようになると考える。型にはめる指導ではなく、共感と納得の指導は、「ここではこんなことをしてはいけない」「ここはあなたが頑張らないといけない」など、子どもの心に迫る指導が可能になる。このことによって、子どもは自分をコントロールする力を身につけるのだと思う。

私たちは、子どもひとりひとりをよく見て、子どもの心を支え育む保育をこれからも実践していきたい。

1．行事をとおして

子どもたちは、さまざまな季節の行事を楽しみにしている。また、保育内容を発表する行事では、「プールじまいの会＝プール活動発表会（8月）」「ちびっこまつり＝運動会（10月）」「おおきくなあれのつどい＝表現活動発表会（1月）」などに期待を持って取り組むことが出来た。特に「ちびっこまつり」では、他園の園長先生が見学に来られ、「子ども達が、期待を持って参加している。これは、先生が個々の子どもの力を知り、ひとりひとりに合った取り組みを提供しているからだと思う。素晴らしい。」「保護者のモラルが高い。保護者が、自分の子どもだけでなく、周りの子どももよく見てよく応援している。だから、子どもも自分の力が発揮できるのだと思う。」という評価を頂いた。

また、「卒園式」では、在園児代表の4歳児、卒園児の5歳児の姿が立派だと評価していただいた。延べ1時間以上という長い時間を、どの子も緊張を乗り越え、主体的に堂々とした態度で証書を受け取ることができた。卒園式は、子どもにとって、保育園で過ごした日々の集大成であり、保育園最後の晴れ舞台でもある。この日、卒園式に参加して下さった来賓の方々は、子どもの堂々とした振る舞いや表情、長時間にわたる集中力や歌を高く評価して下さるとともに、子どもが証書に描いた絵が、色とりどりで丁寧に描かれていることに感動されていた。私たち保育士も、成長した子どもの姿や園外からの評価を受けることで自信につながった。

2016年度の各行事への参加延べ人数（園児・保護者・地域の方・職員）

- | | |
|-----------------|-------------|
| ・ちびっこまつり参加者 | 471人 |
| ・おつきみかい参加者 | 511人 |
| ・おおきくなあれのつどい見学者 | 124人（観覧者のみ） |

2．食育をとおして

今年度も、3歳児以上の子ども達が、季節の食材にかかわる取り組みに力を入れた。具体的には、筍の皮むき、空豆のさやむき、トウモロコシの皮むきなどに取り組んだ。

5歳児のつくって食べる活動では、保育園駐車場のひまわり畑に、季節の野菜を栽培収穫し、調理して食べる取り組みを行った。

また、5歳児は毎日行うお当番活動の一環として、給食の下ごしらえ（皮むきや野菜を切る作業）にも取り組んだ。子ども達も、保育園の給食を支える活動であることを自覚し、意欲的に取り組む姿

があった。また、この下ごしらえ当番は、子どもが家族の一員として家事の一部を任され、頼られる存在であってほしいという願いも込められた取り組みだ。

とくに食べることに興味の薄い子どもは、生活全般でも受身で、さまざまな経験が乏しい傾向がみられる。毎日の生活に自分が関わる活動は、これらの子どもへの刺激となり、良い変化がみられることが多かった。今後も、必要な仕事を任される経験や毎日行われる生活の営みに自ら関わることで、子どもの生活力や主体性を育む保育に取り組みたい。

3 . 安全対策

非常時訓練

月1回の「避難訓練」「通報・消火訓練」を実施した。10月には、中区消防署旭東出張所の職員の立ち会いのもと、避難訓練と水消火器を使った消火訓練、火災報知機を使った通報訓練、そして、消防自動車の見学を行った。毎月の避難訓練の成果もあり、子ども達が静かに迅速に避難する姿を見て、消防署の職員が「避難時間も短く、避難態度も良かった」とほめて下さった。

非常災害時への対応

万が一を想定し、非常災害時の備蓄食料を準備している。現在は、園児と職員で、6食分の離乳食・食事・水・簡易トイレ・アルミシート・メガホン・ラジオなどを備蓄している。

また、岡山市より「岡山市緊急告知ラジオ」の支給を受けて設置している。これは、緊急地震速報や避難勧告・指示などを伝えるもの。

園では、災害時など緊急時の連絡を保護者と確実にを行うための緊急メールを設置している。このシステムは、県外にメールサーバーがあり、子どもたちの安否情報を確実に伝えることが出来るとされている。

事故への対策

岡山協立病院の職員さんによる心肺蘇生の訓練を6月に行った。保育園に設置してある乳幼児や大人に対するAEDの使い方や、心肺蘇生、誤飲時の対処などを、保護者を交え実践した。今年度は、食物アレルギーのアナフィラキシーショックに対応できるよう、エピペンの使用方法についても実践した。

4 . 参観・懇談会

保育参観(年2回)や個人懇談または家庭訪問(年1回以上)などを通じて保育中での子どもの姿を参観したり、子どもと一緒に活動する機会や、担任と保護者が話をする機会なども設けた。

保護者の状況を見るとき、園行事への参加人数は毎年増えているが、クラス懇談会の参加者は、それに比べて少ない現状にある。今年度は、クラス懇談会で子ども達の普段の様子を動画で上映するだけではなく、我が子の「気になるところ」を「良いところ」に言い換えてみんなの前で発表する取り組みを行った。保護者の中には、言い換えできない人もいたが、他の保護者が言い換えてくれ、そんな見方もあるのだと気づく場面もあり、終始なごやかに話し合いが進んだ。

保護者の参加状況

- ・ 保育参観(保育参加)に参加した世帯数 95.6%
- ・ 個人懇談または家庭訪問実施した世帯 91.0%

- ・クラス懇談会に参加した世帯 58.4%

保護者の感想より（クラス懇談会の感想の一部を紹介）

- ・同じ年齢だからこそ共感できる悩みや不安を話すことで、気持ちが楽になった
- ・スライドショーや先生が例を出しながら発達の特徴を説明してくれて、保育での様子がよくわかった
- ・親が何気なく見ていたことを、「こんなこともできるようになったよ」と先生が拾ってくださっていてありがたい
- ・頭ごなしに怒っていたけど、（子どもには）理由があることがわかって、共感してあげなきゃなと関わり方を変えたら（子どもが）落ち着いた
- ・子どもの短所も見方を変えると少しは考え方も楽になるなと思いました。

5．父母の会活動

役員会が、毎月1回開かれた。「おつきみ会」や「ちびっこまつり」、「岡山協立保育園50周年記念」の実行委員会や当日の準備などに、保護者が積極的に参加した。

また、「パパ・飲み会」「ママ・ランチ会」「花火大会当日の屋上開放」「親子クッキング(ピザ)」「親子徒歩遠足(操山)」「保護者研修会」も行った。さまざまな要求を実現し、家族のことや仕事のことなどをゆっくり話す機会が持てたことで、保護者同士のつながりができ、親睦が深まったと感じる。

6．地域との交流（多世代・ボランティアとの交流）

高齢者との交流

5歳児が「旭東ふれあい会食」に参加し、お年寄りとの交流を楽しんだ。

学童との交流

旭東小学校「子どもまつり」で、小学生が作った様々な遊びのコーナーに、子どもたちが参加し、学童とふれあう機会を持った。

地域の施設で交流

旭東児童センターでは、「民話の会」や「お化け屋敷」に他園や学童も参加している。普段と違う場所で、楽しい時間を過ごした。

他園との交流

岡山協立保育園の「劇団風の子観劇会」では、博愛会保育園、旭東保育園、旭東幼稚園の年中さん年長さんが参加してくれ、ともに楽しい時間を共有できた。

旭東幼稚園で開かれる「4園交流運動会」では、博愛会保育園、旭東保育園、岡山協立保育園が参加し、毎年運動会ごっこを楽しんでいる。各園からの出し物もあり、子ども達は楽しく参加していた。

旭東小学校図書館で開かれる「絵本の会」では、図書館司書の方が、博愛会保育園、旭東保育園、旭東幼稚園を含む4園の5歳児に読み聞かせをしてくれる。子どもたちは、大きな期待をもって参加している。

ボランティアさんとの交流

お茶会でお茶を点てていただいたり、絵本の読み聞かせをしていただいたり、魚屋さんにウナギをさばいてもらったりしている。これらの取り組みを通して、子ども達の体験や経験を豊かにすることが出来た。

7．子育て支援の取り組み

園庭開放では、地域に保育園を開放する園庭開放をほぼ毎月開催した。園庭開放がきっかけとなって保育園へ、親子で足を運び、子どもたちが生活する様子を実際に見ることで、一時保育の利用を希望する地域の方が増加した。

医療生協と共に行っている子育て支援は、毎月の子育てサポート委員会で協議し、具体化している。具体的には、「どんぐりフェスタ」「ママ's カフェ」「タッチケア」「夏休み宿題応援隊」などがある。特に「夏休み宿題応援隊」は、参加者が自分の力を発揮できるような取り組みを展開し、楽しい時間が過ごせると大変好評だった。参加したボランティアのみなさんも、保育園の環境や園の子ども達が主体的に生活している様子を見て感心したと感想を述べられた。

子どもがさまざまな世代の人と交流し、普段とは違うその場での振る舞い方を学んだり、たくさんの人に見守られ、大切にされている実感を持つことのできる機会となった。また、これらの取り組みを通して、岡山協立保育園を広く知っていただく機会にもできたと感じる。

8．一時預かり事業

地域の利用者の受け入れを開始し丸6年が経過した。現在は、7時30分から19時までの利用が可能のため、仕事が決まり認可保育園への入園申請を出しているが、定員がいっぱいなどの理由で入園できなかった児童の利用が増えている。

また、ひとり親家庭や住民税非課税世帯の方が、多く利用する傾向がみられた。認可保育園が足りず、行き場のない児童が、福祉事務所の紹介により当保育園の一時保育を利用することが多かった。

9．職員研修

私たちの園では、さまざまな研修会に参加しているが、今年度も、講師を招いての研修会に力を入れた。これは、若い職員が多くなっている中で、職員みんなで保育を観察したり分析したり、講師の先生に助言を頂くことで、理論と実践を結び付ける力を身につけることを目的にしている。

また、発達の学習にも力を入れて、子どもの発達段階を理解し、保育を具体化するために職員みんなで学ぶ機会を大切にしたい。

今年も、園内研修はすべて公開し、ともに学ぶ仲間がいることで保育をよりよいものにしたいという思いを共有でき、私たちにとっても励みになった。研修内容は、以下のような内容だった。

保育実践学習

全クラス実施した。観察後、実践場面を録画した動画を使い、自分の保育を客観的に見ながら課題を明らかにした。子どもの現状や発達にあった環境構成、教材準備、子どもの日課や大人の動きの見直しなど、クラスが抱えている問題についてどうすれば解決できるかを職員同士で話し合った。その中で、気が付いたことや提案されたことについては、職員が自分の問題として納得し取り組めることから実践していくように心がけた。

話し合った結果を主体的に実践に取り入れる中で、子どもが能動的に遊べるようになったり、子どもと大人の関係性がより深まるなど、自分たちがやってみたことの結果で実感することができ、職員の自信につながったのではないかと感じている。

わらべうた研修

年2回実施した。初日は、夜から研修を始め、職員が選曲したわらべうたを、みんなの前で披露した。講師の先生からは、そのわらべうたが生まれた背景やどうやって子どもたちが遊んでいたかななどを教えてもらったり、思い浮かべながらあそぶことの大切さについて学習することができた。

翌日は、講師の先生に保育場面でわらべうたを観察していただき、年齢に合ったすすめ方や大切にすることなどをクラス内で共有した。

今年度は、保育現場を経験した広島大学大学院生の方が、一緒に参加されたが、「0歳児の子どもでも、わらべうたに合わせてきちんとリズム（拍）を感じ、体を使って表現していた。傍にいなかった子どもも、大人のうたに耳を傾け感じていた。保育士が、子どもにうたってあげ、子どもが心地よいと感じていることが伺えた。とても良い雰囲気だった。」という、評価を頂いた。

発達研修

2014年から実施している発達研修会では、3歳未満児と3歳以上児の2つの段階（各2時間）に分けて就学前の発達を学んだ後、2年かけて3つの段階（各3時間）に分けて行った。今年は、「幼児期（1～2歳）の発達の魅力と保育・子育て」「幼児期（3～6歳）発達の魅力と保育・子育て」のテーマで学んだ。

この会には、毎回、公私立保育園や無認可保育園の園長や保育士、保護者、教員、研究者など幅広い参加があった。また今回は、当保育園の3歳以上児に「系列円描画」や「自画像（三方向画・成長画）」などを書いてもらい、実際の講義内容を踏まえて園児の育ちについて検証することができ、大変勉強になった。

子どもの育ちは、単に「それぞれの分野でできるようになる」といった単純なものではなく、関連しながら総合的に質が変わっていくことやエネルギーの強さが大切であることなどを学んだ。参加者にも好評だった。

合宿総括会議

以前に、年に一度恒例で実施していた宿泊研修会を今年度再開した。

一つ目の『いいところ探し』では、一緒に働く仲間の良いところを言葉にすることで、相手に関心を持ち認め合うことと、相手の評価によって自分の良さに気づき、自信を持ってもらう機会をもうけた。参加者は、事前を書いておいたものを、当日、本人に渡しみんなの前で発表してもらう。参加者の感想からは、「みんなが自分のことを見てくれていたとわかり、嬉しかった。」という感想が多かった。

二つ目の『気づき発表会』では、一年間仕事をする中で自分が気づいたことを、発表した。職種や経験によって、発表する内容にも違いはあったが、若い職員からは「何年働いても、新しい気づきがあることに驚いた。来年自分はどんなことに気づけるのかな...と思った」とか、経験年数の長い保育士は「若い人たちにも多くの気づきがあり、大切なことに気付いていることがわかった...頑張っていることがわかった」という感想が多かった。

3つ目の『保護者対応・支援』では、「保護者支援・対応ワークとトレーニング」の本を活用して、みんなで読み合わせと討論をした。グループ討議では、日常的に起きる様々な問題に、対応す

るための確認事項などを話し合った。

夜には、4月に採用が決まっている新入職員の歓迎会を行った。

ゆっくり学び、楽しく遊び、充実した時間を過ごすことが出来て、全体的に好評だった。

経営報告

1. 総合評価

120 人定員による運営となり受入児童数も増加したため、収入・支出ともに前年度より 10,000 千円を超える規模で増加した。また、厚生労働省の『保育所等業務効率化推進事業補助金』を活用して、保育業務支援システムを導入した。導入に要した経費 1,371 千円に対して 1,000 千円の補助金が交付された。

2014 年度と 2015 年度は、園舎の増築工事があったため、施設整備等の支出が大きかったが、今年度は大きな施設整備もなかったため、園舎の修繕計画に沿って保育所施設・設備整備積立金を 10,000 千円積み立てた。また、人件費積立金については、9,000 千円を積立金計画により積み立てた。

貸借対照表で前年度末と比較すると、流動資産は 2,141 千円、固定資産は 6,203 千円増加しており、当期活動増減差額も前年度より 1,833 千円の増加となった。経営状態は良好であるといえる。